

旧校舎で大学生ら夢語る 朗読や演奏も 八百津・福地



「サウナを作りたい」と語った学生ら

八百津町福地の旧福地小・中学校で4月19日、「サロンコンサート」と題した催しがあり、住民や出身者、まちづくりに興味のある人など約60人が集まった。フリーアナウンサーで朗読活動をしている山内聖恵さん（可児市）が、歴史ある木造校舎に親しんでもらおうと企画。住人である葛生良一さんの理解を得て開いた。

同地でフィールドワーク



校舎を見学する学生と来場者

をしている愛知淑徳大学交流文化学部の学生らも協力。住民への聞き取りなどから考えた、廃校の活用方法や地域の課題について発表した。家族と共に移住し、福地で暮らしている二文字屋脩さんのゼミでは、学生がまちの資源や人々の知恵を借り、実現したいプロジェクトを紹介。「狩猟文化の意義を形として残すため、シカ



朗読する山内さん(右)と大久保さん

の頭骨標本を作りたい」などと熱弁した。同地の活性化に取り組む「福地そばの会」の辻建彦さんは「若者のアイデアを聞き、やる気が湧いた」とほほ笑んだ。

山内さんはバイオリニストの大久保真寛さんらとコラボし、朗読を披露。実在した偉人、孝子善九郎の民話などを、情感たっぷりに読み上げた。「1年前にこの校舎を知り、生かす道はないかと考えた。温かな人たちと、楽しい時間を過ごせた」と声を弾ませた。

「中日新聞 chu-ta」2026年5月号より
この記事は chu-ta 編集室の承諾を得て掲載しています。